

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年、教科全体の正答率が区の目標値に達しており、「漢字の読み書きの定着」を図った指導の成果が出たと考えられる。
- ・各学年、スピーチ発表と意見文発表を取り入れたことによって「言語活動の充実」が国語に関する関心を高め、それが正当率の向上につながったと考えられる。

(2) 課題

- ・授業の中に効果的にICTを活用（プレゼンを行わせるなど）して、生徒の興味関心をさらに喚起させたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第3学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	授業の中で漢字の読み取り書き取りの時間を短時間確保する。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	詩や短歌の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。
第2学年	文法の学習を積み重ねることで文章を正確に読み書きできる力を付ける。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	川柳の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。
第3学年	文法の学習を積み重ねることで文章を正確に読み書きできる力を付ける。	作文の時間を多く取ることで表現力を身に付けさせる。	俳句の創作を取り入れることで主体的に学習しようという姿勢を作る。

令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。
- ・ICTを活用して授業展開を図ったことにより、資料の読み取りの技能などの向上に繋がったと考えられる。

(2) 課題

- ・問題に主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。
- ・ICTを活用した授業をどのように評価していくかの検証を行っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。 (第2学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を下回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第2学年	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	雨温図や分布図の読み取りの時間を毎時間設定し、資料の活用を身に付けさせる。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。
第2学年	「小テスト」を行い知識の定着を図るとともに、効果的な資料を提示し、毎時間読み取る時間を設定する。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。
第3学年	「小テスト」を行い知識の定着を図るとともに、効果的な資料を提示し、毎時間読み取る時間を設定する。	ワークシートを活用し、社会的事象に関する自分の考えや今後の在り方について考えさせる。	学習カードなどを活用し、授業の振り返りなどを記入し、学習の調整を図る。

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において習熟度別少人数授業を継続しており、スタンダードコース（基礎～標準）とアドバンスコース（標準～発展）のどちらにおいても、少人数でのきめ細かい指導が生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・タブレットドリルやプリントを併用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・問題に主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	計算とデータの活用において課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。タブレットドリル等の副教材を活用して、基本の定着を図っていく。	小数・分数等の計算問題やデータの読み取りに課題がある。計算問題での途中の式や、データを読み取るための根拠などを丁寧に板書し、きちんと書き写させることを徹底する。	習熟度別少人数授業を継続していく。授業規律の確立と徹底を第一として、ノートとプリント教材での指導を並行して行っていく。問題の取り組み方について丁寧に指導する。
第2学年	図形においてやや課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。タブレットドリル等の副教材を活用して基本の定着を図っていく。	記述能力をさらに高めるため、証明における根拠を丁寧に板書し、正確に述べるができるよう、説明させる機会を増やし、実際に記述させる指導を繰り返す。	習熟度別少人数授業を継続していく。ワークの取り組み方について丁寧に評価し、家庭学習の習慣付けをしていく。発表内容を認め、自信を持たせるようにしていく。
第3学年	図形においてやや課題がある。関連する単元の学習において、復習の機会を設ける。タブレットドリル等の副教材を活用して定着を図っていく。	図形において基本問題から徐々に練習を重ねた上で、力を試す発問やプリントでの演習を行う。難しい問題においては分かりやすく丁寧な説明を行い、類題に取り組ませる。	習熟度別少人数授業を継続していく。授業への集中度をより一層高め、コースに応じた演習問題に取り組みさせていく。総合問題の取り組み方について指導する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全学年とも区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材の活用など、教科の学習内容の定着に一定の効果があったと考えられる。

(2) 課題

- ・ICTの活用などを充実させることで、より興味関心を高められる授業を行う。
- ・基礎基本の定着と共に、発展的な学習内容に着手できるよう支援を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	目標値を上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行うことで、知識の定着を図る。実験や観察の技能と取得と定着ができるよう、積極的に理科室を活用していく。	実験や観察を行うとき、結果や考察を書かせ、判断や表現をできる機会を増やす。実験の予想などに、今までの結果や知識を生かせるような指導を行う。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味を持たせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図っていく。また、実験や観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容も行い、思考や判断を行う場面を増やす。レポート作成を行い、表現を工夫できる指導を行う。	実験や観察の機会を増やし、積極的に学習に臨む姿勢をつくる。ICTを活用し、興味を持たせる指導を行う。副教材を利用し、学習内容の定着を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストやノートの確認を行い、知識の定着を図る。また、実験観察を積極的に行い、技能と取得と定着ができるよう、授業内容の検討を行っていく。	基本的な事項を確認しつつ、発展的な学習内容を積極的に取り入れ、思考や判断を行う場面を増やす。レポート作成を行い、表現を工夫できる指導を行う。	発展的な内容を取り入れることで、意欲的に考え、活動できるよう学習内容の充実を行っていく。副教材を利用することで、学習内容の定着を行う。

令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全ての学年において少人数授業を継続しており、きめ細かい指導と生徒同士の学び合い・教え合いの活動が、生徒の理解を深めていると考えられる。
- ・どの学年も教科全体の正答率が区の目標値に達しており、基礎・基本の定着を図った指導の成果が出ていると考えられる。
- ・副教材及び4 skills を活用した家庭学習の推進により、学習内容の定着に一定の効果があつたと考えられる。

(2) 課題

- ・既習表現を活用して、主体的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てること。
- ・生徒が知的好奇心をもち、さらに自らの学力を向上しようとする意欲を高めさせる工夫が必要である。
- ・主体的に取り組むことが難しい生徒や、提出物の取り組みに時間を要する生徒への補習などの支援が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を大きく上回っている。		
第2学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。 (第2学年時)	

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	平均的である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を大きく上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な語彙の確認や活用の見直しを丁寧に行う。また、ポイントをおさえ、読む活動を増やす。	英作文では、既習文法を活用し、伝えたい内容が要約できるよう、日本語の整理から丁寧に行う。	積極的に辞書を活用し、豊かな言語表現ができるようにする。また、授業内で相互に学び合う機会を多く取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業では「聞く」「読む」の活動をバランスよく行う。あわせて文法的なことから定着を図る。	テーマに沿って自分の考えを「書く」「話す」練習をする。また多くの英文を読むことで、日本語を介さず内容を把握できる力を養う。	復習を中心とした課題を出し、学習の定着を図る。また発表の機会を定期的に設け、学習した語彙や文法を使い自己表現する意欲を養う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとの確認テストを行い、学習の定着を図る。タブレットの4 skills を活用し、「読む」「聞く」の力を養う。	今後もテーマに沿って「書く」の活動を多く取り入れる。また、ALT の授業や4skills を通して「話す」の練習を行い、自分の考えや意見を表現する力を養う。	個々の学習状況を踏まえた課題や改善点を提示する。また、生徒は評価や指導をもとに、主体的に学び続け、改善しようとする態度を養う。

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果・定期考査で、音楽用語や記号について出題した際に、正答率がとても高かった。
- 合唱授業において、① 録音 ② 分析 ③ 改善 というサイクルの授業をすることによって、技能改善に効果があった。
- (2) 課題・歌唱においては、感染対策のためのマスク使用により、口の開き方や形の確認ができないことに工夫が必要と感じている。今年度からは、できるだけマスクをしないで歌うよう働きかけている。
- 感染症の影響により、器楽の授業を見合わせているので、在学期間中に計画的に実施できるように授業計画をたてる必要がある。
 - 楽語の理解度は高まったが、音符休符の長さやリズム読みが苦手な生徒が多いので、知識として身に付けることも、感覚的に拍数を感じ取ることもできるように工夫していきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音符の長さや強弱記号など、小学校では感覚的に捉えていたものを、読み方や意味を確認して知識として定着するよう指導していく。新出の音楽記号はその都度読み方と意味を確認し、楽譜を見て表現を考えられるようになることを3年間の目標としていく。	歌唱では変声期の生徒には特に注意を払い、パート練習時には個別に指導しながら無理のない範囲での発声を促していく。 合唱では変声が終わった生徒が多いので、2年生で歌うレベルの曲に取り組みたい。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習事項の音楽記号や楽典を、その都度復習し、基礎知識の定着を図る。鑑賞の授業においては、ICTを活用し、視覚的にも情報や知識を得やすい工夫をしていく。また、音楽史についても各時代の特徴を理解できるように授業展開を行うためにプリントの工夫をする。	表現の授業では、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を行う。 曲想を分析し、どのように表現するかを具体的に考えさせながら合唱に取り組みたい。	授業規律を確立させることが大切である。楽しく歌う雰囲気も大事だが、おしゃべりにつながらないようにコントロールしたい。忘れ物をしないことも徹底させたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音楽記号などを生かして表現を工夫し、演奏をより良いものにするために、対話的に話し合いの時間を設けながら授業を展開する。様々な時代の音楽や、日本の伝統音楽、作曲家によって生み出された作品を守るためのルール（著作権法）など、幅広い知識を学ぶための教材を扱う。	表現の授業では、2年次よりも難易度の高い題材を扱うので、授業の最初に全体で表現の工夫を確認し、パート練習時に自分でその課題を達成できるような授業展開を可能な限り少ない授業時数で行わないと曲数をこなせなくなってしまう。	成績のために努力するのではなく、音楽の良さの本質を追求する態度を期待するという観点で評価していく。 より難易度の高い合唱曲に取り組み、仕上げることで自信をもたせたい。

令和5年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果 ・自ら問題解決することや、時間内に作品を完成させることができない生徒はいるが、ICT を用いての課題作成・提出期限を設けたことによって期日を守るという意識づけが行えた。
- (2) 課題 ・時間内に課題を完成させる習慣づけが必要。
・どう取りくめばよいか分からない生徒への対処が必要。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

令和5年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分やグループの課題について考え、その課題に応じた練習を選択し改善することができた。
- ・グループワークでの発言の内容のレベルが上がってきた。

(2) 課題

- ・グループワークで話し合いをする場面では、積極的に発言する生徒と発言しない生徒の二極化が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	本時のねらいに向けて、正しく内容を理解し、自分のレベルに応じた技能を身につける。	グループで話し合い計画を立て、実践し、どこに課題があったのかを評価・改善する活動を取り入れる。	達成状況が把握できるように、ノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。
第2学年	I C T・教材を活用して、技能の正しい行い方を視覚化する。また、授業の導入で「本時のねらい」を明示し、本時の学習に見通しをもたせる。	グループで話し合い計画を立て、実践し、どこに課題があったのかを評価・改善する活動を取り入れる。	達成状況が把握できるように、ノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。
第3学年	I C T・教材を活用して、技能の正しい行い方を視覚化する。また、授業の導入で「本時のねらい」を明示し、本時の学習に見通しをもたせる。	自分やグループの課題に応じた練習を考え、選択し取り組むことができるようにする。	達成状況が把握できるように、ノート提出を行い、改善の方法を考え実践することで、個にあった到達目標に向けて向上していく心をはぐくむ。

令和5年度 技術家庭科 授業改善推進プラン

大田区立田園調布中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果 ・学習内容に対する生徒の興味・関心・意欲は高い。作品を完成させることにより充実感を味わわせ、それが次の課題に取り組む意欲を高めていることにつながっていると考えられる。
- (2) 課題 ・設定した時間内に作品を完成させることができない生徒について、昨年度より減少した。
 - ・自ら問題解決することが苦手な生徒が比較的多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年			
第2学年			
第3学年			

(2) 分析（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
第2学年			
第3学年			

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工具や教材に触れ、体験することで知識や技能の向上をはかる。 日常生活と関連することがらについて目を向けさせる。 実習では安全に留意し、作品を完成させることに重点をおく。	作品の見本や写真、動画などを確認しながら、視覚的にとらえられるようなものづくりを実践していく。 発表や発言の機会を設定し、コミュニケーション能力の育成を行う。	毎時間の終末に、学習カードを利用して、作品の評価や、全体的な自己評価を行い、次時のものづくりを実践していく。